

# 地域医療連携室が 新しく整備されました

指導相談・地域医療連携部長

山崎 武美

昨年度より、すべての兵庫県立病院に地域医療連携室が設置されました。これにともなって、こども病院の「指導相談部」は「指導相談・地域医療連携部」として組織、再編成されました。しかし、当初より地域医療連携室は医事課の中に併設され、地域医療連携室所属の医療ソーシャルワーカー(MSW)も事実上は医事課配属となっていました。これでは地域医療連携室として十分な活動ができず、かねてより、地域医療連携室を整備充実し、きめ細かな医療サービスを提供することができるようにと望まれていました。本年9月5日より、地域医療連携室が新しく整備され医事課より移設しました。

地域医療連携室の主な仕事は、新患予約業務を中心とした患者様・地域医療機関・医師会等と連携しスムーズに医療を提供する業務です。現在は、事務職員2人で対応していますが、将来的には新患・再来の外来診療予約システムの一元化を目指しています。また、患者様やご家族の医療制度などに関する医事相談業務も大切な仕事の一つです。医事課にあった相談コーナーを新たに「患者様相談窓口」として地域医療連携室に設置し、MSWもこちらへ配属しました。医事・医療に関わるご相談、ご要望などご遠慮なくお申し出下さい。ご相談の内容により、指導相談部への振り分けなど「指導相談部」と「患者様相談窓口」とは連携を密に保ち、患者様並びにご家族へ円滑な治療・療養ができるように診療支援を行なっています。

指導相談部ではこれまで通り、精神保健福祉相談員(PSW)、保健師、心理判定員が主治医との連携を図り

ながら、治療的な関わりや助言、発達支援、在宅療養支援の推進、地域の各種医療・保健・福祉機関との連絡調整、また、発達障害児の集団療育、心理検査・心理療法などを引き続き行なってまいります。平成17年4月より、発達障害児(者)支援法※が実施されました。母子保健の分野でも指導相談部へのニーズはますます高まって行くと思われまます。

指導相談・地域医療連携部はお子さまとご家族から信頼されることを目指しています。地域医療連携室が整備されましたのを機に今後ともよろしく願いいたします。

※発達障害者支援法(平成17年4月1日から施行)

本法における発達障害の定義は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの」とされている。



# 「イギリス・ウェールズ地方の栄養事情3」

栄養指導課長 下浦 佳之

**この**お話も最終回。私の夕食は原則的には自炊であり寮（付属病院に隣接する学生宿舎Neuadd Meirionnydd）で調理することが可能であった。世界各国から医師等の医療関係者が研修を受けておられ、寮のキッチンはずまさに世界の料理オンパレード？様々な匂いの入り交じった、まさに食生活の「国際交流」は会話の苦手な私にとってコミュニケーション以上の「恐怖？」でもあった。

**しかし** 英国人の食生活を把握するには外食を経験するのが一番と、上手な屁理屈をつけて毎晩のPUB通い？になることもしばしばで、ビール片手に学外実習と称して、隣の英国人のテーブルに注文された料理を横目でチェックしながら、栄養談義で盛り上がるひとときもあった。

**また**、食生活を知る上でもう一つ忘れてはならないスーパーマーケット等で販売されている食材料のチェックも参考になった。結構野菜はたくさんあり、安価であることに驚かされたが、生で食べる野菜の種類が多いようで、日本食での「煮る」という食習慣との違いを感じた。

**ビール**にポテトチップス、料理にたっぷりのバター、甘いジャム、シロップのたっぷりかかったデザート等、どれをとっても、「これじゃ〜、あの体型になるのも無理ないなあ」と思わされた。そんな栄養事情にも関わらず、健康に関してとても関心が強いことを研修の講義の中で聞いたり、書店にある栄養に関する書物の多さからも、与えられる情報が豊富であることを感じるが、どこの国でも同じで食生活を改善することの実践の難しさを痛感した。



●ビール片手のPUB談義  
手前にフィッシュ&チップス



●スーパーマーケット店内風景



Notice  
Dietician  
栄養指導課案内



# 「げんきカエル」の オヤツだよ!

栄養指導課



こども病院ニュースレターのニックネームである「げんきカエル」をお菓子や果物を使って表現し、入院患者の皆様におやつとして提供しました。

●作り方は超簡単!!

- 1 お皿にストロベリーソースをしき、スライスしたキウイを大小各1枚のせる
- 2 ちっちゃな白玉団子（卵ポーロ可）を作り、チョコソースで目を書く
- 3 ミカン缶詰とチェリーでお口にする
- 4 ハート型の市販パイを傘に、ポッキーを柄にして盛りつける。「なんというこでしょう」写真のような「げんきカエル」が出来上がります。お子様と楽しみながら作れますよ。



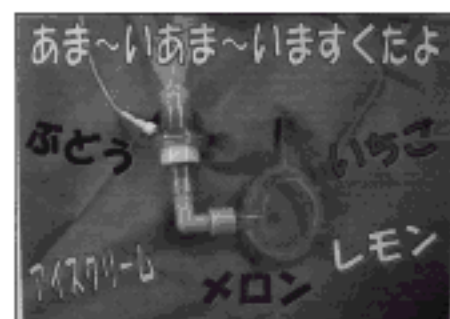
(1杯分) : 150kcal  
P:1.9g F:3.5g C:27.3g



# 中央手術室

看護部

- 24時間体制で緊急手術の受け入れをしており、外科系全科の手術に対応しています。
- 周手術期に、より安全で安楽なケア、家族の方が安心できるケアを提供するため、予定手術の全症例に対して術前訪問を実施し、麻酔導入時に使用するマスクや血圧測定用のマンシットを用いて疑似体験を行なっています。
- 長時間に及ぶ手術に対して術中訪問を実施し、麻酔導入時のお子様の状況・手術の進行状況をお知らせし、ご家族の不安の軽減に努めています。
- 日帰り手術では、麻酔導入時の母子同時入室を実施し、お子様が眠るまで付き添って頂き、麻酔導入時の不安の軽減に努めています。



Notice  
From  
Dietician  
栄養指導課案内

About  
Nursing Care  
看護部だよ!

# アレルギー科 両親教室 について

アレルギー科部長 三好 麻里

アレルギー科では毎月1回両親教室を開催しています。ボランティアの方がお子様のお世話をさせて頂きますので、お子様連れで御参加いただけるのも特徴の一つです。2006年前半のスケジュールは以下のとおりです。

- 場所／兵庫県立こども病院  
周産期医療センター1階 研修室AB
- 日時／第2金曜日 13時～15時
- 1月13日(金) 食物アレルギーの診断と治療
- 2月10日(金) アトピー性皮膚炎のスキンケア
- 3月10日(金) 環境整備と  
アレルギーマーチ(喘息・花粉症等)

内容ですが、前半の1時間は、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士からそれぞれのテーマに沿った話題で話をさせて頂き、それについての御質問を受けています。後半の1時間はフリートークで、日ごろ困られていることや感じておられることなど、いろいろと自由に話し合う時間としています。外来診療の短い時間内ではお話しきれないことや相談しきれないことなどをいろいろとお話することが出来て、私たちにも大変勉強になります。双方向にコミュニケーションのとれる診療を目指して頑張っていきたいと思います。

What's  
new  
in the  
hospital?  
診療科トピックス



↑管理栄養士からの話題提供



↑薬剤師からの話題提供



↑フリートークタイム (司会 三好医師)



↑看護師からの話題提供



8月8日



# 夏祭り

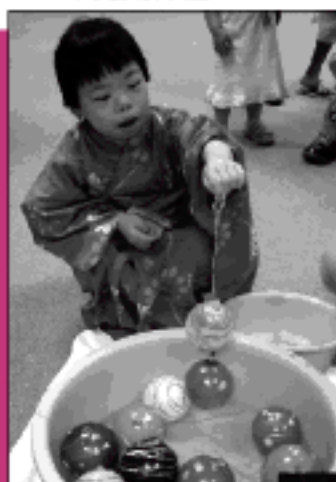
保育士 奥田 早苗

## 日本の夏

夏も盛りの8月8日、今年も毎年恒例の夏祭りが開かれました。お祭りが始まると、次々に子どもたちがやってきて、ヨーヨー釣りに気合い満々で挑む子や、もじもじ照れながらくじ引きを引く子、最初からずっと手作りコーナーで作り続ける子など、総勢71名の子どもたちが参加しました。今年のテーマは「日本の夏」ということで、会場となった研修室ABの中央には大きな「元気神社」が登場しました。神社前でのお賽銭ゲームでは、きらきらのゲーム用お賽銭を投げて「早く元気になりますように」とお祈りする姿や、家族で記念撮影する姿が見られました。出し物には、お賽銭ゲーム・くじ引き・射的・ヨーヨー釣り・手作りコーナーとどれも日本の夏祭りを感じてもらえるものを揃えました。射的での子どもたちの顔は真剣そのもの、思うように玉が飛ばず悔しがるともいました。くじ引きでは何が入っているかわからないチャレンジャーボックスが登場。チャレンジャーボックスを選んだ子どもたちは、いたすらっぽく笑いながら手をいれると、箱の中でグニャ・ワサワサ・プヨプヨとした感触が……。引いた子どもたちはびっくりして「うわっ」と思わず声が出ていました。手作りコーナーは、ちょうちん・うちわ・たこ焼きヨーヨーの3つから一つ選んで作ります。一番人気だったうちわは、銀の土台にシールを貼って完成させます。作り終えた子どもたちはひらひらさせて眺めたり、浴衣の帯に挿したりしていました。ヨーヨー釣りでは何個も釣り上げて、入れ物のバケツが足りなくなる子もいました。本年初めて行なった紙芝居の読み聞かせでは、手作りの紙芝居「のっぺらぼう」をボランティアの方が迫力満点に読み上げました。こわ〜い怪談話に子どもたちも通りすがりの大人の方も足を止めて聞き入りました。



↑元気神社



↑ヨーヨー釣り



↑景品選び



↑射的



↓紙芝居



↓三角くじ





## 「発達検査」って???

指導相談・地域医療連携部  
心理判定員（臨床心理士）藤井美有

前回、いろいろな種類の心理検査についてお話ししましたが、今回はとくに「発達検査」をご紹介します。

主に乳幼児が対象の発達検査は、体のバランス感覚、言葉の理解や表出、形や数の理解、大小・長短・軽重など概念の理解、表情など対人理解等をチェックし、現在の発達段階を捉えるものです。

ここでのポイントは、これらはおもに経験によって獲得されるものであり、学習のみによっては獲得しにくいということです。また、その獲得のペースは様々であり、幼児期は発達の個別差が一番あらわれやすい段階です。「言葉の爆発」という表現があるように、十分な刺激を受けていると、ある日それが表にあらわれてくることも多いのがこの時期の特徴のひとつです。

発達検査では、「今、何歳位の発達にあるか」ということだけでなく、上記の各チェック項目に偏りが無いかに関して重要な示唆が得られます。

偏りがある場合は、

1. 個人の持つ特性
2. 刺激・経験が少ないための伸び悩み
3. 家庭教育などによる学習の影響

などを考え、どのような関わりが伸びを促すのか相談していくこととなります。いちばん大切なことは、発達はお子さんとは異なるのではなく、そのお子さん自身の成長がどうか、ということです。発達検査は物差しのひとつであり、他のお子さんとの優劣をつけるものではないのです。



## 産科病棟における服薬指導

薬剤部

当院の産科病棟は妊娠・出産に伴い、母体もしくは胎児に異常が認められたために、専門的な検査や高度な治療が必要となった患者様を対象に、24時間対応を行っています。今回は産科病棟での服薬指導についてご紹介します。

## ★指導内容

●お薬の飲み方、効き目、副作用の初期症状などについて薬剤師が患者様に説明を行っています。また、患者様が飲まれている薬の服用歴の作成により、お薬の重複投与や他のお薬との相互作用や飲食物との飲み合わせのチェックを行います。さらに、患者様から副作用、アレルギー等の聞き取り調査や、服薬状況の確認を行い、飲み忘れ時の対応について説明をしています。妊娠中や授乳中の患者様が、安心してお薬を飲んでいただけるよう、妊娠中・授乳中の赤ちゃんへのお薬の影響についても説明をしています。

●良く使われる妊娠中のお薬について

## お薬の名前・お薬の主な目的

## 切迫流・早産治療剤〈ウテメリン〉

子宮の収縮を抑えることで、おなかの張りや痛みなどを改善し、流産を予防します。胎盤の血液の流れを改善して、赤ちゃんの発育をよくします。

## 制酸・緩下剤〈マグミット錠〉

妊娠すると腸が圧迫され、女性ホルモンが増加して便秘し

やすくなります。腸内での水分の吸収を抑え、便を軟らかくして便秘症状を改善します。

## 滴剤型緩下剤〈ラキソベロン〉

腸の働きを助けることで便秘症状を改善します。

## 鉄剤〈フェロミア錠〉

妊娠中は胎児や胎盤などに供給するための血液が必要であり、分娩時の出血に備えるため、鉄分の必要性が高まります。血液中の酸素を体内に運ぶ赤血球を構成するヘモグロビンという物質を作る時に必要な鉄分の不足を補い、めまい、疲労感、息切れなどの貧血症状を改善します。

上記以外にも、症状に合わせ、安全性の高いお薬が用いられます。

## ●授乳中のお薬について

母乳は赤ちゃんにとって栄養源であるばかりでなく、母子のスキンシップ面からも人工乳よりも優れています。また多くの薬は母乳を通じて赤ちゃんへ移行しても、その量はお母様が飲んだ量の1%以下という極めて微量であるといわれており、実際に赤ちゃんへの影響は少ないです。

しかし、抗がん剤、免疫抑制剤など、飲んでいる間は授乳してはいけない薬もありますので、一般のお薬を含め、

授乳中に薬を服用する必要がある場合には、担当の医師、薬剤師に相談して下さい。

私達薬剤師は、1人1人の患者様に安全で適正な薬物療法が行われるように服薬指導を通じて支援しています。お薬に関することならなんでもご相談下さい。







# 手洗いに始まり手洗いに終わる



検査・放射線部 中内 美穂

Memorandum  
From 検査部門からのお知らせ  
Radiology

細菌検査技師として院内感染予防対策の仕事に携わって18年が経過しました。感染予防対策に対する取り組みも随分変化はしましたが、予防対策への基本的な考え方は今も同じです。専門病院としてのこども病院では、医療の高度化に伴って、未熟児や重症患者の救命、大量化学療法等易感染状態におかれた患者様が対象であるため我々医療従事者が耐性菌に対しては、作らない、拡げないをモットーに取り組まなければならない。

そのためにも感染対策の基本となる「手洗い」は院内感染予防対策上もっとも基本的で、重要な対策である。「99人が手洗いを実行しても1人が守らなければ感染対策予防は無となる」この基本的な概念は医療従事者の頭の中にはあっても、具体的に、誰が、いつ、どのような方法で、何を使って、何のために手洗いするのか十分に理解されているとは限らない。また、正しい手洗いの手順は複雑で、日頃から練習が必要なほどむずかしい。

## ●手洗いの種類として

### 日常手洗い

日常の手洗いの基本は石けんと流水である。食事の前やトイレの後や通常の看護の前後などに行う手洗い。日常手洗はもっとも基本的であり、すべての手洗いの基本である。

## 衛生的手洗い

消毒剤と流水による手洗いで、医療現場で無菌操作時やその手指消毒を目的として行う手洗い。

院内感染の伝播経路はさまざまな経路が考えられるが、何がいちばんリスクが高く、可能性が大かと考えると、やはり医療従事者の手指にゆきつく。患者様のケア時の手洗いがどれだけ完全にできるかということは大変重要なポイントである。

患者様を手指を介した交差感染から守り、病原微生物から医療従事者を守るためにも、何のために手洗いをしているかを考えながら、目的に応じた方法で効果的な手洗いを行うべきである。

感染防止は  
手洗いに始まり  
手洗いに終わる

手洗いのポイント

「一処置一手洗い」が鉄則である

## 手洗いの基本は石けんと流水。



時間は少なくとも10秒は必要です。10秒は思ったより長いので注意！石けんと流水で15秒以上の手洗いをすると、消毒薬を使うのとあまり変わらないほどきれいになります。汚染の可能性のある場合、外出後、食前、トイレ後には必ず手洗いを。





## 基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

## 基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

## 患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
  - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
  - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
  - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
  - 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
  - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

## 編集後記

風が冷たく感じられる季節となって参りました。今季号のトピックは、地域の医院や病院との連携を行い、患者様の相談窓口の役割を担う「地域医療連携室」でした。御家族の皆様、お気軽にご相談下さい。また今季号では、患児様のための行事やお楽しみなど、こども病院ならではの写真が掲載されており、思わず微笑んでしまいました。これからも豊かな紙面づくりのため、編集委員一同頑張りますので、「げんきカエル」に対する皆様方のご意見、ご感想をお寄せ

ください。今季号の編集担当は、丑でした。

編集委員長：大橋正伸（診療部）、編集渉外担当：行 祥子（指導相談・地域医療連携部）

編集担当：丑 真貴子（看護部）春名真巳子（看護部）、村田和歌子（薬剤部）、正井秀幸（検査・放射線部）

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

## 兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1  
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
E-MAIL:[info\\_kch@hp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@hp.pref.hyogo.jp)